

正誤表

※訂正箇所は、<正>で色文字にて記しております。

① 5 頁 表

<誤>

	電位依存性	電位非依存性
内向き	Na ⁺ 電流 (I _{Na}) Ca ²⁺ 電流 (I _{CaL}) 過分極活性化陽イオン電流 (I _h もしくは I _i)	なし
外向き	一過性外向き K ⁺ 電流 (I _{to}) 遅延整流 K ⁺ 電流 (I _K) ・超迅速活性化 I _K 電流 (I _{Kur}) ・迅速活性化 I _K 電流 (I _{Kr}) ・緩徐活性化 I _K 電流 (I _{Ks})	内向き整流性 K ⁺ 電流 (I _{K1}) アセチルコリン活性化 K ⁺ 電流 (I _{K(ACh)}) ATP 感受性 K ⁺ 電流 (I _{K(ATP)})

<正>

	電位依存性	電位非依存性
内向き	Na ⁺ 電流 (I _{Na}) Ca ²⁺ 電流 (I _{CaL}) 過分極活性化陽イオン電流 (I _h もしくは I _i)	なし
外向き	一過性外向き K ⁺ 電流 (I _{to}) 遅延整流 K ⁺ 電流 (I _K) ・超急速活性化 I _K 電流 (I _{Kur}) ・急速活性化 I _K 電流 (I _{Kr}) ・緩徐活性化 I _K 電流 (I _{Ks})	内向き整流性 K ⁺ 電流 (I _{K1}) アセチルコリン活性化 K ⁺ 電流 (I _{K(ACh)}) ATP 感受性 K ⁺ 電流 (I _{K(ATP)})

② 13 頁

<誤>

刺激伝導系は、線維性組織により固有心筋と絶縁されており、特定の場所では固有心筋と電氣的に連絡していません（あまり注目されていませんが重要な特徴です）。このヒス束以下の刺激伝導系の興奮は、途中で固有心筋にリークすることなくプルキンエ線維の末端まで効率的に伝播されます。そこで初めて心臓の収縮が始まります。

<正>

刺激伝導系は、線維性組織により固有心筋と絶縁されており、特定の場所では固有心筋と電氣的に連絡していません（あまり注目されていませんが重要な特徴です）。**特定の場所とは、「洞結節—心房筋間」「心房筋—房室結節間」「プルキンエ線維—心室筋間」の3か所です。**このため、例えばヒス束以下の刺激伝導系の興奮は、途中で固有心筋にリークすることなくプルキンエ線維の末端まで効率的に伝播されます。そこで初めて心臓の収縮が始まります。

③ 49 頁 図 15 心臓軸

<誤>

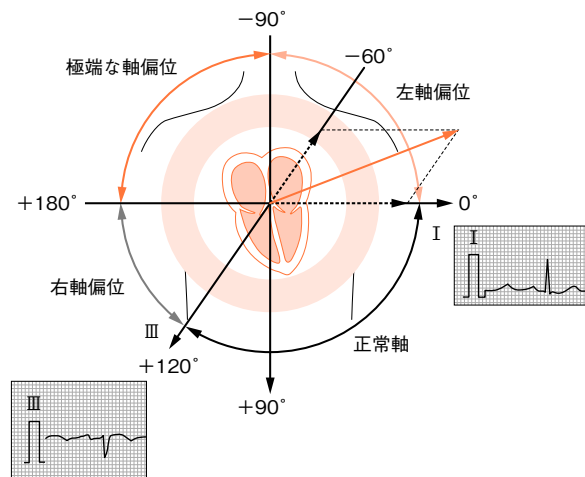


図 15 心臓軸

<正>

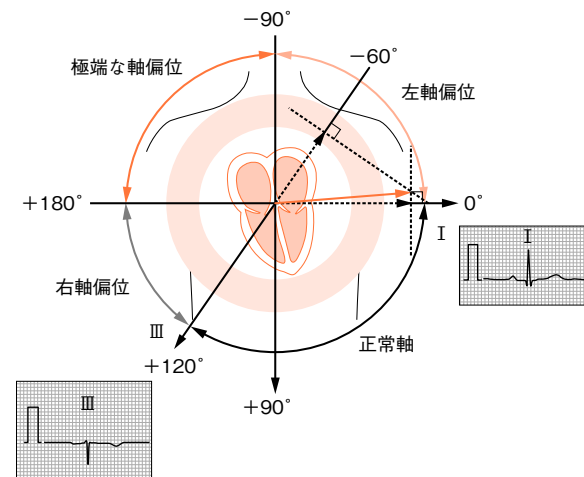


図 15 心臓軸